第５回検討委員会資料

目　　次

１．第４回検討委員会振返り資料
（話し合い（ワークショップ）まとめ

１）Ａ班＋Ｂ班＋Ｃ班から抜粋　Ｐ１

２）Ａ班　Ｐ５

３）Ｂ班　Ｐ７

４）Ｃ班　Ｐ９

教育部総務課
令和４年６月２日(木)

これからの学校づくり第４回検討委員会 話し合い（ワークショップ）まとめ

＜Ａ班＋Ｂ班＋Ｃ班から抜粋＞

テーマ① 不登校について

キーワード：今と昔の様々な相違（ゲーム等）、不登校の予防と現実対応、トラブルと耐性

【課題】

Ｉ．仲間、放課後

→人間関係が作れない

○地域で遊ぶ相手がいない
○人間関係形成、異年齢交流ができていない
○人間関係を作れない
（統合により地域に子どもが集まりにくい。コロナで集って遊ぶと苦情）

２．家庭、環境変化

→ゲームがあるので不登校でも困らない

○困り感が薄い（ゲームで繋がれるので）
○今はネット社会で家にいても楽しい、対面で得られるメリットよりデメリットが多い
○子どもの様子が劇的に変化したのがゲーム（ファミコン）の存在。昔は家にいてもつまらなかった
○ゲーム等による生活習慣の乱れ
○親子で向き合う時間が不足している（スマホ、家庭のルール等）
○スクール児童館で遊ぶよりも、家にある楽しいゲームがたくさんあるので、引きこもりがち

３．学校、先生

→学力の低下、学校がつまらない、辛い

○先生が生徒の人間関係に目が行き届いていない
○昔は子どもの役割を先生が振ることができたが、今はできない（あの子の面倒見てあげてとか）
○先生の尊厳が低下している（デリケートな問題への対応）
○学力の低下（勉強ができるようになると、学校へ行くのが楽しくなるのでは）
○不登校原因の場合分け（行きたいけど行けない or 行きたくないから行かない）
○学校がつまらない、学校へ行くのが辛い
○共働きにより母親の目が子どもに行き届かない

４．その他

→先回り、トラブル回避、耐性低下

○個が過度に尊重されていることで、子どもたちの耐性が弱くなっている。又、周りが優しすぎることも原因か（課題解決能力の低下）
○トラブル慣れしてないので、トラブルが起きると無気力になり不登校へ
（そういう子は親の愛情が不足しているように感じる）
○理不尽な経験ができない。なんでも肯定されたり、集団の同調圧力が強くて馴染めない子がおり、無気力に

５．新たな視点

→学校へ行かないことを肯定的にとらえる

○そもそも不登校でも良いのでは
○最近の引きこもりは、家から出ないがネットや SNS で社会との接点を持っているため昔よりは良い

【解決】

→居場所、学校を面白く、道徳学習の強化

○子どもが放課後などに集まれる場所をつくってあげる（例えばスクールバスを増便）
○学校の方が面白い、楽しい場所とする
○家庭の問題も包括的にサポートできる施設活用も解決には必要
○学校が人間づくりをサポート
○学校に行けなくても新しい居場所があると良い
○学校に行きたくなるような環境づくりが大事（集団生活で揉まれることで力つく）
○小学校でも教科担任制が導入され、担任と教科担任、複数の目で子供を見られる
○人として大切なものを学ぶ環境を作る（道徳学習の強化）

教育部総務課
令和４年６月２日(木)

テーマ②　いじめについて

キーワード：子どもは大人の鏡～道徳心が何より大事～、いじめといじり、いじめに対応する正しい知識などを身につけさせる、トライ＆エラー

【課題】

１．予防教育

→いじめにならないため、道徳心等をしっかり教育する

- **○何がいじめかわからない。悪いと思っていない子が多い。具体的に「何が悪いのか」を伝える必要がある**
- **○道徳心、相手を思いやる心、約束・時間を守る生活習慣を身につけさせることが重要**
- **○人間は本能的にヒエラルキーをつけるもの、いじめにならないよう正しい知識を身につけることが必要**

２．対処に対する教育

→当事者同士での解決。或いは逃げ場があることを教える

- **○いじめはなくならない。大人は逃げ場あるが、子どもは繋がりが少ないので逃げる場所がない**
- **○リーダー研修で当事者同士の解決が重要だと感じた**
- **○今は子どもに失敗させない教育となってしまっているため、トライ&エラーの経験が不足している（失敗を重ねて成長する）**

３．大人の影響、メディア等外的要因

→大人の道徳心、メディアのいじり暴力の子どもへの影響

- **○子どもはすべて大人の鏡。メディアのいじりや暴力をまねてしまう**
- **○教員含め、大人のいじりが子どものいじめを助長させてないか**
- **○意識の低い大人の態度などが、子供へ悪影響を及ぼす。子どもは大人の縮図。**
- **○親の担任いじめを見た子どもが負の連鎖を引き起こす**

４．その他

→同調圧力

- **○みんな一緒、そこから外れる言動等は攻撃される。良くても悪くても（部活勝利至上主義の話）**
- **○学校統廃合による地域文化の相違からいじめが発生する場合も**

解決

→大人の道徳心、小中高の連携、多様な意見の尊重、子どもにトライさせる（大人は見守り）、褒めること、人の意見も肯定してみる

○大人が襟を正す（子供は、強い人、弱い人、悪い人などを見ている）
TV などで大人がいじったり、いじめたりする姿が普通に放送している。
又、親が教師の悪口をいうことで、それを見たり聞いたりした子ども達がそれが普通だと思ってしまう。
○イジメは無くならない、逃げる方法教える。
○アンケートでしか、SOS を発信できなということは、相談の場があっても行けない。複数の目で、体制で対応が必要（不登校になっても自殺は絶対ダメ）
○大人が手本となって学んでもらう。家庭、学校、地域一体で
○教育委員会での自殺防止を図る
○多様な意見を尊重する（同調圧力）
○友人等との繋がりが希薄で、自己肯定感の涵養が図られない
○ケンカできない（ケンカ後に仲直りするなどの経験が積めない）
○学校が安全ではない
○大人の道徳の授業が必要では（いじめを受けた経験のある人の話を聞くなど）
○上級生や大人が一緒になって解決していく。又、解決力を身につけさせる
○理想は、子ども達に全てを任せ、大人は自殺は避けるようフォロー体制をとり、アンテナを張る。
○ガキ大将の存在
○携帯や SNS の使い方を大人が教える
○SNS の悪口とあるが、陰口なんかは昔からある。要は大人の道徳心が大事なのだ
○物事に対して、適性のない人は一定数いる。問題は、これに対して、否定するのは簡単だが、まずは肯定するよう助言している、実は、あれはできる、これができるといったもって行き方をするとみんな悪い気はしない。又、生産性も向上しており効果があるようだ。周りがそういった人を受け入れる寛容性も大事。
○まず褒めることが大事で、「あずましい」環境づくり。道徳心の育成が一番重要だ。又、小中高の連携も必要
○人の受け取り方は千差万別なので、複数人での会話時に、周りの人がこう捉えているかもしれないとの助言が大事だ。

教育部総務課
令和４年６月２日(木)

これからの学校づくり第４回検討委員会 話し合い（ワークショップ）まとめ②

＜各班毎・Ａ班＞

テーマ① 不登校について

課題

Ｉ．仲間、放課後

○地域で遊ぶ相手がいない
○みんなで何かするということがない、公園に人がいない
○人間関係形成、異年齢交流ができていない
○親しい人にはなかなか悩みを打ち明けられない（が、異年齢ならできそう）
○昔は通学時に近所の子を誘い合って登校していたが、最近は一人が多い

２．家庭、環境変化

○人間関係形成能力が減退（ゲーム）し、異年齢交流がなくなった
○困り感が薄い（ゲームで繋がれるので）
○今はネット社会で家にいても楽しい、対面で得られるメリットよりデメリットが多い
○子どもの様子が劇的に変化したのがゲーム（ファミコン）の存在。昔は家にいてもつまらなかった
○ゲーム等による生活習慣の乱れ

３．学校、先生

○先生が生徒の人間関係に目が行き届いていない
○昔は子どもの役割を先生が振ることができたが、今はできない（あの子の面倒見てあげてとか）

解決

○子どもが放課後などに集まれる場所をつくってあげる（例えばスクールバスを増便）
○学校の方が面白い、楽しい場所とする

テーマ② いじめについて

課題

○いじめはなくならない。大人は逃げ場あるが、子どもは繋がりが少ないので逃げる場所がない

○みんな一緒、そこから外れる言動等は攻撃される。良くても悪くても（部活勝利至上主義の話）

解決

○大人が襟を正す（子供は、強い人、弱い人、悪い人などを見ている）
TV などで大人がいじったり、いじめたりする姿が普通に放送している。
又、親が教師の悪口をいうことで、それを見たり聞いたりした子ども達がそれが普通だと思ってしまう。

○イジメは無くならない、逃げる方法教える。

○アンケートでしか、SOS を発信できなということは、相談の場があっても行けない。複数の目で、体制で対応が必要（不登校になっても自殺は絶対ダメ）

○大人が手本となって学んでもらう。家庭、学校、地域一体で

○教育委員会での自殺防止を図る

○多様な意見を尊重する（同調圧力）

○友人等との繋がりが希薄で、自己肯定感の涵養が図られない

○ケンカできない（ケンカ後に仲直りするなどの経験が積めない）

○学校が安全ではない

○大人の道徳の授業が必要では（いじめを受けた経験のある人の話を聞くなど）

教育部総務課
令和４年６月２日(木)

これからの学校づくり第４回検討委員会 話し合い（ワークショップ）まとめ②

＜各班毎・Ｂ班＞

テーマ① 不登校について

課題

１．仲間、放課後

○人間関係を作れない（統合により地域に子どもが集まりにくい。コロナで集って遊ぶと苦情）

２．家庭、環境変化

○親子で向き合う時間が不足している（スマホ、家庭のルール等）

３．学校、先生

○先生の尊厳が低下している（デリケートな問題への対応）
○学力の低下（勉強ができるようになると、学校へ行くのが楽しくなるのでは）
○不登校原因の場合分け（行きたいけど行けない or 行きたくないから行かない）
○学校がつまらない、学校へ行くのが辛い

４．その他

○個が過度に尊重されていることで、子どもたちの耐性が弱くなっている。又、周りが優しすぎることも原因か（課題解決能力の低下）

５．新たな視点

○そもそも不登校でも良いのでは

解決

○家庭の問題も包括的にサポートできる施設活用も解決には必要
○学校が人間づくりをサポート
○学校に行けなくても新しい居場所があると良い

テーマ② いじめについて

課題

○子どもはすべて大人の鏡。メディアのいじりや暴力をまねてしまう

○女子のいじめの複雑さ

○今は子どもに失敗させない教育となってしまっているため、トライ&エラーの経験が不足している（失敗を重ねて成長する）

○何がいじめかわからない。悪いと思っていない子が多い。具体的に「何が悪いのか」を伝える必要がある

○教員含め、大人のいじりが子どものいじめを助長させてないか

○先生と子ども達がお互い信頼していない

解決

○上級生や大人が一緒になって解決していく。又、解決力を身につけさせる

○理想は、子ども達に全てを任せ、大人は自殺は避けるようフォロー体制をとり、アンテナを張る。

○ガキ大将の存在

○携帯や SNS の使い方を大人が教える

○SNS の悪口とあるが、陰口なんかは昔からある。要は大人の道徳心が大事なのだ

教育部総務課
令和４年６月２日(木)

これからの学校づくり第４回検討委員会 話し合い（ワークショップ）まとめ②
＜各班毎・Ｃ班＞

テーマ① 不登校について

課題

１．仲間、放課後

○昔は通学時に近所の子を誘い合って登校していたが、最近は一人が多い。

２．家庭、環境変化

○スクール児童館で遊ぶよりも、家にある楽しいゲームがたくさんあるので、引きこもりがち

○共働きにより母親の目が子どもに行き届かない

３．学校、先生

○学習面以外の評価、人として良いところ、道徳心を評価することが特に重要
人としてのコミュニケーション、心構えなど、人としての有様をもっと教育しして評価すべき。社会は視覚障害、聴覚障害者のことをもっと理解してほしい

○無気力な子どもには肯定的（キラキラ）な言葉が届きづらい（家庭背景あり）

４．その他

○子ども達が将来に展望を見出せない

○トラブル慣れしてないので、トラブルが起きると無気力になり不登校へ
（そういう子は親の愛情が不足しているように感じる）※B 班の耐性と共通項あり

○理不尽な経験ができない。なんでも肯定されたり、集団の同調圧力が強くて馴染めない子がおり、無気力に。

○インターフェイスの多様化や小学校での教科担任制により原因がわかりにくくなっている。又、問題を誰に繋げていくかも大事

５．新たな視点

○最近の引きこもりは、家から出ないがネットや SNS で社会との接点を持っているため昔よりは良い

解決

○学校に行きたくなるような環境づくりが大事（集団生活で揉まれることで力つく）

○小学校でも教科担任制が導入され、担任と教科担任、複数の目で子供を見られる。

○人として大切なものを学ぶ環境を作る（道徳学習の強化）

テーマ② いじめについて

課題

○人間は本能的にヒエラルキーをつけるもの、いじめにならないよう正しい知識を身につけることが必要

○意識の低い大人の態度などが、子供へ悪影響を及ぼす。子どもは大人の縮図。

○道徳心、相手を思いやる心、約束・時間を守る生活習慣を身につけさせることが重要

○親の担任いじめを見た子どもが負の連鎖を引き起こす

○リーダー研修で当事者同士の解決が重要だと感じた

○学校統廃合による地域文化の相違からいじめが発生する場合も

解決

○物事に対して、適正のない人は一定数いる。問題は、これに対して、否定するのは簡単だが、まずは肯定するよう助言している、実は、あれはできる、これができるといったもって行き方をするとみんな悪い気はしない。又、生産性も向上しており効果があるようだ。周りがそういった人を受け入れる寛容性も大事。

○まず褒めることが大事で、「あずましい」環境づくり。道徳心の育成が一番重要だ。又、小中高の連携も必要

○人の受け取り方は千差万別なので、複数人での会話時に、周りの人がこう捉えているかもしれないとの助言が大事だ。